



フロレテ フロレス

～花よ 花開け～



～コラム～



2022年が始まりました。
透き通る青空の三ヶ日で清々しい気持ちの年明けでした。
コロナ感染への不安もまだまだ拭えない世の中ですが、明るい希望ある一年にするためにも、前を向き、そして叶えたい強い意志と目標をもって前進していきましょう。
新しいことに「トラ」イして、え「ガオー」絶えない、ウル「トラ」ハッピーな一年となりますように♪

今年一年が皆さんにとって幸多い年となりますようお祈りしております。
今年もどうぞよろしくお願ひ致します。



TABLE OF CONTENTS

1	新年ご挨拶
2	LIFE
3	今月の話題

NEWSLETTER Vol.202

JAN'15 

神社仏閣「パワースポット」

開運 近隣の有名所から穴場スポットまでをご紹介します
2022年 あなたのパワースポット探し♪

■千葉神社(千葉)：星(人の運命)と方位の守護神・妙見菩薩を祀る妙見信仰の総本社。厄除け・八方/方位除けのパワースポット

■麻賀多(まかた)神社(千葉)：成田山新勝寺近く、樹齢千三百有余年を誇る東日本一の大杉は圧巻！伊幡沼周辺に18社ある麻賀多神社の本宮で、神道版の黙示録ともいえる「日月神示」(ひつきしんじ)が降ろされた場所として知られます。

■東国三社：関東以北の人は伊勢に参宮した後、禊ぎの「下三宮巡り」と称してこの三社を参拝しました。

*息栖(いきす)神社(神栖市)：武神の乗り物であった「天鳥舟」という控えめな存在の神が祭られ井戸がご神体とされています。

*鹿島神宮(鹿嶋市)：関東最古の神社として知られ、日本神話で最強の神として知られるタケミカズチノオオミコトが祭神で、困難に打ち勝つ、迷いを断ち強い意志を持つ、邪をはねのけるといった御利益が得られます。「意を決した者が行く」ことで、強い御利益が得られるといわれています。

*香取神宮(香取市)：御祭神は勝利の神であるフツヌシノオオカミのため、落としたいくない試験や手放したくない仕事がある際にお詣りすると御利益があるといわれています。

■成田山新勝寺(成田)：大迫力の不動明王が祀られている新勝寺は、心身の浄化や厄除け、生涯除去、願望成就などにご利益があるパワースポット。日本風情溢れる門前町では、観光も一緒に楽しめます。

■箱根神社・箱根九頭龍神社(箱根)：源頼朝と北条政子が安産を祈願した神社として有名、縁結びのパワースポット。1の鳥居から5の鳥居を順番にくぐることでお参りの効果がアップし、訪れた際は順番に鳥居をくぐって本殿へ向かきましょう。隣にある九頭龍神社は関東最強の龍スポット！

■三峰神社(埼玉)：天空のパワースポット、参拝することで仕事運や金運の御利益を得られるということで有名。特に人気なのは毎月1日に配られる「白い気守り」。このお守りは、持ち歩くだけで力が湧いてくるといわれています

■大宮氷川神社(大宮)：関東に多い氷川神社の総本社、出雲族のパワーが上昇しています。神社には5本の大木があり境内どこでも木のパワーを感じます。

■明治神宮(東京)：関東最大級の結界、境内にある二本のご神木は「夫婦楠(めおとくす)」と呼ばれ、夫婦円満や家内安全、縁結びのパワーをもらえることで人気のスポット。「清正井(清正の井戸)」は写真を撮って待ち受けにすることで仕事運アップの効果が得られるともいわれています。

■増上寺(東京)：境内には多数のパワースポットがあり、勝運アップ、災厄除の御利益がある「安国殿」「芝東照宮(活力アップの御利益もあります)」、安産、子育て開運は「西向観音」などです。また、家康勝運の仏様は勝運、災厄除けにもご利益があるといわれています。



新年あけましておめでとうございます

2022年、初春のお慶びを申し上げます。

昨年も「コロナに明けコロナで暮れた」一年間でした。誰もが忍耐を重ね、そして新しい希望する毎日を得るために大変な努力を重ねた一年間でした。皆さんと共に無事に2022年の新しい年を迎えられましたこと、心より嬉しくお礼申し上げます。

世の中は徐々に緩和ムードと状況好転への期待感が高まりつつありますが、一方で変異株『オミクロン株』の存在も油断できず、ただ、確実に私たちの気持ちと同様に日本経済も前進しております。この2年間の「継続努力と苦難を乗り越えた現在の自分」にどうか“自信と誇り”を持ち、それをこれから進むための“新たなエネルギー”に変換してまいりたいと思います。

『念ずれば花ひらく』という言葉がございました。何事も、強い思いとそれを本気で叶えたいという強い意思があればこそ、人はそれを叶えるべく知恵や行動すべき努力が初めて見え、それがたとえ辛い道のりであっても成就させていくのだと思います。特にこれからの世の中は、叶えたい希望があれば、それをどのように思い・考え・行動するかで、時に会社や人生の分かれ道になる…選択と努力が明暗を分けてしまふという、そんな世の中になるのではと感じます。

本年も、弊社スタッフ一同、「念じて、行動し、努力し、花を開花させるため」、誠心誠意努力してまいります。明るい希望の光を追い続け、皆さんと共に頑張りたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い致します。

代表取締役 駒井祐子

< LIFE < 干支の寅・虎・トラ >

トラ：古来よりアジア文化の中で力や威厳の象徴と親しまれネコ科最大の動物、日本では生息しておらず、寿命は15年程

寅の意味
「寅」とは、方角においては東北東、時刻では午前3～5時を指す漢字。動物の「虎」を表す。漢字の由来は「引く」や「伸ばす」など同じニュアンスで草木が伸びていく様を表しており、天に向かってたくましく伸びていく草木の姿は、まさしく気高い虎そのものですね。

寅年ってどんな年？
過去の寅年は以下のような出来事があった年でした。
・バブル経済の始まり
・世界初の女性宇宙飛行士が誕生した
・世界最長の吊り橋「明石海峡大橋」が開通
・人類初の有人衛星が達成された
・バラク・オバマ氏が大統領に就任した
寅年には「初」や「新」という漢字がつくような出来事が多くありました。2022年も「何か新しいことが始まる年」になるかもしれません！

2022年は60年に1度の「壬寅」
2022年は60年周期で訪れる「壬寅（みずのえとら）」にあたる特別な年。「壬（みずのえ）」とは、ゆったりカーブを描きながら流れる大河を表し、加えて「決断」の意をもつ「寅」が合わさった2022年は、安定性や落ち着きをもちながらも、はっきりと決断できる年！になりそう！

寅年の向かい干支は「申（さる）」
干支には「向かい干支」があり、十二支を円状に並べたとき各干支の正面（向かい側）に置かれるのが「向かい干支」。向かい干支は、別名「守り干支」や「裏干支」とも呼ばれ両者は正反対の性質を持つとされ、自身もっていないパワーを与えてくれる干支と信じられてます。向かい干支を大切にすると、幸せが訪れるなどの言い伝えもあります。

寅・虎・トラで思い出す言葉

- 寅さん
映画「男はつらいよ」シリーズの主人公「フーテンの寅」こと車寅次郎の愛称。全48作の国民的人気映画、寅さんはお正月の顔でもありましたね。
- 白虎隊
戊辰戦争で会津藩が編成した少年部隊。飯盛山での白虎隊士の集団自決が会津藩の悲劇の象徴として語り継がれてます。
- トラトラトラ
日本軍の真珠湾攻撃の成功を伝えた電文。日米合作映画（「トラトラトラ！」）や、歌のタイトル（MAXがカバー曲、シブがき隊のシングル曲など）としても有名！
- トラは英語でTiger、阪神タイガース（野球）、タイガーウッズ（ゴルフ）、タイガーマスク（プロレス）等



虎視眈眈（こしたんたん）
相手に隙があればつけ入ってやろうとじっと様子をうかがい機会をねらっていること。「虎視」は虎が獲物を狙う鋭い目つき。「眈眈」はじっと見下ろすこと。

虎の尾を踏む
この上もなく危険なことのたとえ、危うきこと虎の尾を踏むが如し。

虎を野に放つ
災いのもとになる危険なものを野放しにすることのたとえ。本来は「千里の野に虎を放つ」。

騎虎（きこ）の勢い
物事に勢いがついて途中で止めにくいこと。また、止めてしまうとむしろ害を受けること。

虎に翼
もともと強いもの、勢いのあるもの、さらに強いもの、勢いのあるものが加わることのたとえ。

虎の威を借る狐
権力や権勢のある人の力をかさに着ている人のたとえ。

虎になる
ひどく酔っ払うこと。また、酔っぱらうと強気になること。

張り子の虎
威勢を張って強そうに見せかける人。首を振る癖のある人のこと。

虎を描きて狗（いぬ）に類す
見事な虎を描こうとしてくだらない犬の絵になってしまうことから、凡人が優れた人のまねをして軽薄になってしまうこと、立派すぎるものや大き過ぎるものを求めたがために失敗してしまうことのたとえ。

虎の巻
芸事などの秘伝をしるした書や講義などに用いる種本のこと。また、教科書の内容を簡単に解説した参考書、あんちょこ。

虎の子
虎は我が子をとても大事にすることから、非常に大切なもの、貴重なものをいう。

虎穴に入らずんば虎子を得ず（虎穴虎子）
虎の棲む穴に入らなければ貴重な虎の子を得ることができないため何事も危険を冒さなければ成功を収めることはできないというたとえ。

虎は千里往って千里帰る
虎は1日に千里ほどの遠方まで行くが、子を思いその千里の道を帰ってくることから、子を思う親の情愛がきわめて強いことのたとえ。

大賢虎変
すぐれた賢者が、時の流れに合わせて、日々自己変革すること。または、すぐれた統治者の制度変革によって、古い制度が新しくより良い制度に改められること。

猛虎伏草
英雄が世に知られていないこと。また、いつかは必ず世にでてくるものの例え。

